

区中央部 課題の整理

医療資源

☛ 高度医療の集積 / ☛ 高度急性期～回復期: 広範囲から流入 / ☛ 慢性期: 区部を中心に広く流出

<p>地域の特徴</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 回復期リハなど回復期機能が少ない ○ 療養病床が少ない ○ 回復期機能の患者を7対1で受け入れているとの声 ○ 急性期から早期に直接在宅へつなげているとの声 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 成人肺炎などの完結率が低い ○ 急性期、回復期機能の稼働率が平均より低い ○ 地域包括ケア病床が増えているものの他病院等からの転院割合は低い ○ 在宅を担う診療所から急変時対応を求める声 	<ul style="list-style-type: none"> ○ がん患者の流入が多い ○ 急性期機能以降、退院調整部門を持つ病院が減る ○ 退院後に在宅医療を必要とする患者の割合が急性期機能で1割超 ○ 他の構想区域で、区中央部に流入した患者の退院連携を求める声
<p>論点</p>	<p>回復期、慢性期機能の医療提供体制</p>	<p>都全域の高度医療を支える一方で、地域包括ケアシステムの構築に向け、高齢化する地域住民の入院医療体制</p>	<p>流入している患者の退院調整部門の充実</p>
<p>調整会議での意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 独居の患者だと帰ろうと思っても帰れない場合がある。結果、近くに慢性期病院がないため、他県等に流出している ・ 地域によっては、地元意識が高いことから、構想区域内でも転院が困難な場合がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域包括ケア病棟をもっているが、院内移動がほとんど、在宅や急性期病院からの患者を地域包括ケア病棟に受入れられるよう、病院や診療所との連携の仕組みができないか 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者が増えれば、急性期の患者は地域の中での完結率が高まり、流入患者が減るのではないか。今後は、病病連携を進めることが重要である ・ 医療連携室を設けて努力はしているものの、もう少し何らかの支援があれば、もっとスムーズに行くのではないか ・ <u>退院調整がうまくいけば、いろいろな所が詰まらなくて、うまくいくのではないか</u> ・ 大きな病院でも、ある科に紹介して、他の疾患が見つかると、他の院内の先生を紹介され、<u>結局、紹介した在宅医のところに戻ってこない</u> ・ 退院調整部門が、地元に戻すことを目標にして、<u>もともと送ってきた先生のところに戻す仕組みが必要</u>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 区中央部は多くの病院があるが、<u>お互いの病院がどのような機能を持っているか、お互いに知って、相互で利用できるような仕組みがあると良い</u> ・ 退院、転院をスムーズに行うためには、患者の理解も必要である。 ・ 他圏域からの患者が送られたら帰す。区中央部は、退院調整をきちんとやって帰すというのも使命である 			

- ☛ 入院患者を地域のかかりつけ医に円滑に戻すための取組が必要
- ☛ 圏域内の医療機関の医療機能を把握するなど連携を強化する取組が必要
- ☛ 地域包括ケアを支える病床を効率的・効果的に活用していくための方策